白鷹町は「まち・ひと・しごと創生」に向け、昨年10月に地方創生の「総合戦略」と「人口ビジョン」を策定しました。森林・林業の再生や紅花生産日本一によるイメージアップ戦略『日本の紅（あか）をつくる町』などのプロジェクトを掲げ、産業の振興や子育て支援、移住促進などによる人口減少対策の取り組みがスタートしました。

最上川の流域圏を構成する白鷹町と白鷹山を介して隣接する県都山形市は、中核市への移行を目指し、「力強い県都」に向けた動きが加速しています。

今回は、国道３４８号の全面開通から四半世紀近くが経過した今、これまでの交流を振り返るとともに、これからの村山圏域の山形市、そして置賜圏域の白鷹町の関係強化と「新しい国道３４８時代」に向け、佐藤孝弘山形市長と佐藤誠七白鷹町長に対談していただきました。

## 叫ばれる地方創生。今あるものを今までにない形に

**司会**　今、地方創生が叫ばれ、この「地方の良さ」が改めて見直されている時期だと思います。白鷹町は県の花である紅花の生産量が日本一ということで、この『紅花』を軸に、特色を活かし、山形市と連携して、相乗効果が期待されるところですが、佐藤町長はどのようにお考えでしょうか。

**佐藤（誠）**　白鷹町は山形市と非常に近い位置にあるわけですが、歴史・文化圏からいきますと置賜の一員としての広域事業を展開しております。その中で、我々が手をかけさせていただいている産業の一つが「紅花」であるという認識を持ち、今後の紅花の方策を展開していかなければならないと考えております。

また、この紅花につきましては、山形市の高瀬地区で取り組んでおられる「紅花まつり」がまさしく、山形県の県花である紅花を「観光」という視点から取り組まれた素晴らしいものであると認識しております。白鷹町でも毎年「紅花まつり」を開催させていただいておりまして、昨年で21回目を数えましたが、実はこれも高瀬地区を参考に取り組ませていただいてまいりました。

紅花生産日本一の町として、今後は白鷹町の産業の一つである『紅花』で、観光・交流人口の増大ということを目指していきたいと思っているところです。

**佐藤（孝）**　今、佐藤町長からありましたとおり、高瀬地区で紅花をずっとＰＲさせていただいておりまして、スタジオジブリの「おもひでぽろぽろ」の舞台でもあり、いろんな面で交流人口の拡大に寄与していると思っております。しかし、せっかく生産したわけですから、その出口としてどのように商品化していくか、産業化については、もちろん生産量最大の白鷹町の方が進んでいると思っておりますので、今後、連携、あるいは教えていただきながら一緒に盛り上げていきたいと思っております。

**司会**　紅花を軸に盛り上げていく可能性というのはまだまだありますか。

**佐藤（孝）**　やはり「他にない」というのが地方創生の大事なところで、全国的に見たときに、紅花イコール山形県とすればいろんな付加価値が出てこようかと思います。そういった面では、やりようがいくらでもあると思います。

**佐藤（誠）**　山形県のイメージは先ほども申し上げたとおりサクランボが筆頭ですが、花としては紅花です。天童市、あるいは河北町、上山市が取り組んでおられるように、紅花で誘客をするというよりも「交流人口を増やしていきましょう」という姿勢で、これからは広域で事業を展開していくことが必要になってきます。そこで、県都山形市の声掛けを我々は期待しますし、我々も参画させていただき、県内全体としての取り組みを産業としての位置づけまで盛り上げていけるかどうか、これは我々に課された課題であると思います。

↖「日本の紅（あか）をつくる町」のロゴマーク